東北小だより

～学校教育目標～
なかよく元気な子
よく考える子
すすんで働く子

開校５６年目

新座市北野３－１－１　TEL 048-471-2022
HP https://e-tohoku-c-niiza.edumap.jp/

令和６年度９月号
全児童数　８２１名

「夏休みを振り返って」

～　笑顔いっぱい　歌声響く　東北小学校　～

校長　斉藤　直之

せみが夏を惜しむかのように鳴き続けています。

このような中ですが、幸いにも東北小学校の子供たちは､大きな事故やけがもなく、元気に夏休みを過ごせたようです。この夏休みが、子供たちにとって、新しい知識・技能の習得の場となったでしょうか。

さて、ここで問題です。「関東地方は７地方のうち、野菜の生産額が何番目でしょうか。」皆さんならどのように考えるでしょうか。さあ、ここでいろいろと考えてみましょう。人口が多く、土地が狭いので関東地方は６番目。需要が多く交通網が整備されているから４番目。近郊農業が行われているから２番目くらいか等、順位をつけるためには、このような根拠となる考え方によって、様々な考えが浮かんできます。

さて、結果はと言うと、実は関東地方は第１位なのです。関東平野にある野菜畑の面積は、なんと全国の約４分の１を占めるほどの大きさです。関東地方の付近には人口の多い大都市がいくつもあるため、都市で生活をする人に向けて都市の近くで野菜を作る「都市近郊農業」というスタイルの農業が、関東平野を中心として盛んに行われているからなのです。

遠くから野菜を運んでくると、輸送費が余分にかかる上､鮮度も落ちてしまいます。しかし、都市の近くで農産物を作れば、安い輸送費で鮮度が高いものをたくさんの人に届けることができます。また、関東地方ではこのような土地の利点を生かし、鮮度が落ちやすい野菜や草花なども多く生産されています。

野菜の生産という一つの分野で、人口や需要、そして、交通網等、様々な視点での考え方が浮かんできます。さらに、もう少し考えを進めてみると、水菜は、土と水と日光があれば､栄養が無くても育つのです。この考え方を基に、地形や地質といった視点が出てきます。関東地方は、広く関東ローム層が分布しています｡関東ローム層は、火山灰が堆積し、火山灰に含まれていた金属分が酸化されて粘土となった、いわゆる赤土によってできているのが特徴です。高台や台地を構成しているので、農業用水の確保が難しいこと、火山灰でできた土壌であることから植物の生育に必要な栄養分をあまりふくまないことなどから、農業、特に稲作には向かない土地でした。そこで、水の確保をすることで､稲作は難しくても、野菜作りを推進することができたのです。

このような考え方に至るためには、ある教科における知識としてただ覚えるのではなく、複数の教科で得た学びを関連付けさせて考えなければ無理だと言えます。

この先の変化の激しい社会に対応できる子供たちを育成していくためには、どうしたらよいのか｡今後は､学習を関連付けて、教科横断的な未知の課題やその解決策を見出す創造的な学びが求められます。

ここで大切なことは､このことを新しく、難しいことだと頭だけで考えないことです。このことは、我々が今までも生活の知恵として、自然に学んできたことだからです。知識に偏ることなく、「いつでもそうかな？」「どこでもそうかな？」「誰でもそうかな？」夏休みは、そのような疑い深い子供たちを育む絶好の機会だったのではないでしょうか。